

機関番号：13902

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530803

研究課題名（和文） 海外での教育実習による幅広い視野を持つ教員の養成

研究課題名（英文） Training of the teacher who has wide view by student teaching in foreign countries

研究代表者

江島 徹郎（EJIMA TETSURO）

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10335078

研究成果の概要（和文）：教員を志す学生たちが、他国の学生たちと協力して授業を創り上げることによって、幅広い視野を持つ教員を育成することを目指した。国の違う学生たちであっても、一緒に授業を創るパートナーとなり得ることが示された。しかし、学生たちは(1) 国と文化を一体化し、社会の中の多様性に向きにくい、(2) 徳育的な目標を設定しがち、という傾向があった。この学生たちが、どのような教員になっていくかが、今後の課題である。また、授業を受けた子どもたちへの議論と評価ができていない。

研究成果の概要（英文）：We have aimed to foster a broad perspective teachers. It is because students in other countries and Japan were made by creating a class together. Even students of different countries, shows that you can create a class with a partner. However, students tended to be two. (1) Integrating the country and culture. Unaware of the diversity of society. (2) Tends to be a moral lesson goals. Students in the future, what would become a teacher like? We make sure that. We are not able to discuss and evaluate children who classes.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：多文化教育・教育実地研究

1. 研究開始当初の背景

愛知教育大学ならびに研究代表者は、教員養成大学として国際交流を広く行ってきた。また、研究代表者や連携研究者は、国際協力機構(JICA)の研究コースを実施したり、ユネスコ(UNESCO)の支援による ACCU International Exchange Programme により、大韓民国の大学等との学生の訪問等も行っている。

愛知県は、国際的な企業が多くあり、そのため外国籍の子どもたちがとても多い。そこで、現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）として、「外国人児童生徒のための教材開発と学習支援プログラム」を推進した。

愛知教育大学は、愛知県で教員になる学生が多い。よって、国際的な視野を持つ教員の養成は急務であると考えられる。本研究は、

児童生徒の支援だけではなく、教員養成そのものにおける取り組みが必要である、との認識から組み立てられた。

2. 研究の目的

本研究は、海外での「教育実習」を通して、幅広い視野をもつ教員を育成することを目的とする。具体的には、海外国際交流協定締結校との間で、本学学生が海外における小学校等で実際に観察・参加・実習を行い、その効果を明らかにする。さらに海外国際交流協定締結校の学生が、本学附属学校園等で同様の教育実習を行う。その相互の効果も明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、以下の(1)~(3)を毎年度繰り返しながら、深化を進めることによって行った(図1)。

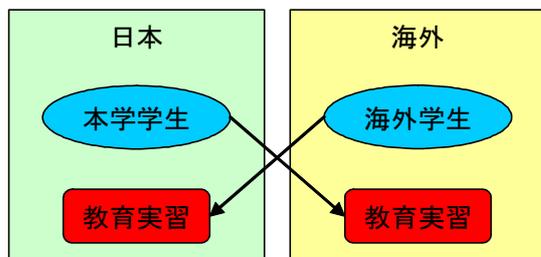


図1 本研究の基本的な枠組み

(1)海外国際協力締結校(晋州教育大学校) → 愛知教育大学

研究代表者ならびに連携研究者は、本研究に参加を希望する学生・大学院生を学内公募し、選抜する。

晋州教育大学校の研究協力者は、本学で教育実習を行う学生を公募し、選抜する。

5月、研究協力者が海外国際協力締結校の学生を引率して、本学を訪問する。本学の学生・大学院生が翻訳などのサポートを行う。

本学の学生と海外国際協力締結校の学生は、地域の小学校などでの「教育実習」を行う。

事前ならびに事後調査などを行い、これを評価する。

(2) 愛知教育大学 → 海外国際協力締結校(晋州教育大学校)

9月、研究代表者ならびに連携研究者は、本学の学生を引率して、海外国際協力締結校を訪問する。本学の学生と海外国際協力締結校の学生・大学院生と一緒に授業の検討を行

う。海外国際協力締結校の附属学校などでの「教育実習」を行う(図2)。



図2 韓国の小学校で授業を行う本学学生と子どもたち

事前ならびに事後調査などを行い、これを評価する。

(3) 検討

研究代表者ならびに研究協力者は、本研究の検討を行う。

また、研究代表者ならびに研究協力者は、次のような点に留意した。

(1) 基本的に参加する学生が中心になって準備などを行うよう促す。

(2) 上記の学生たちに、お互いの留学生や留学経験者、以前のプログラムへの参加者に積極的に参加してもらえよう促す。

(3) 相互のコミュニケーションを円滑に行うために、e-Learning システムなど用意した。

4. 研究成果

本研究は、以下のように行われた。

年月	参加学生	小学校
2007年 5月	晋州教育大 学部 12名	知立東小
2007年 9月	愛知教育大 学部 13名院 7名	晋州教育大 附設小
2008年 5月	晋州教育大 学部 13名	知立東小
2008年 9月	愛知教育大 学部 13名	晋州教育大 附設小
2009年 5月	晋州教育大 学部 12名	知立東小

2009年 9月	愛知教育大 学部11名院1名	晋州教育大 附設小
2010年 5月	晋州教育大 学部12名	知立東小
2010年 9月	愛知教育大 学部9名院3名	晋州教育大 附設小

図3 参加学生と小学校

また、本学学生が授業のテーマとしたことを、以下に挙げる。

年度	テーマ
2007	日本に古くからある遊びに触れるーけん玉を通してー
	日本と韓国の昔話
	食を通して日韓の文化の違いを学ぶ
	独楽を通して日韓の文化を見つめ直す
2008	水引・熨斗袋から贈り物をする際の心遣いを学ぶ
	茶道を通してもてなしの心を
	日本の文化（扇子作り、投扇興）
	七夕まつりを通じて知る願掛けの文化
2009	お菓子から考える食文化
	音楽を通して国際交流のきっかけを持つ
	エコ活動
	日本の遊び
2010	折り紙で忍者手裏剣を作ろう！！
	地域から見る民族衣装
	はっけよ〜い、のこった！晋州場所開幕！！
	日本の正月

図4 本学学生の授業のテーマ

主な研究成果は以下のとおり。

(1) 交流をすすめるにつれて、学生の言語が大きなウェイトを占めることがなくなってきた。すなわち「日常」の交流がすすむようになった。

(2) しかし、より相手の言語や歴史、文化について学習する必要を指摘する意見もあり、検討を進める必要がある。

(3) 一方、学生たちは、授業を計画する際、国と文化を一体化し、社会の中の多様性に向きにくいことが分かった。なぜそうなるのかを検討する必要がある。

(4) 国や文化の比較でないようにしようとすると、学生たちは、徳育的な目標を設定しがちである。これも理由を明らかにする必要がある。

(5) 本研究に参加した学生たちは、その後も海外国際協力締結校の学生たちとの交流を続けているものがある。このことは、国の違いを越えていける可能性、すなわち幅広い視野の涵養がある程度成功している可能性を示唆している。

(6) すなわち、国の違う学生たちであっても、一緒に授業を創るパートナーとなり得ることが示された。

(7) この学生たちが、どのような教員になっていくかが、今後の課題である。本研究は大学の修学年限と同じ4年の計画であったので、その後教員になった学生たちの追跡が計画に含まれていない。今後これに取り組んでいく。

(8) また、授業を受けた子どもたちへの議論と評価ができていない。

(9) 本研究の成果を、教員養成のカリキュラムに正規の形で組み込むことができていない。一部は組み込むことを試みたが、問題も多かった。今後の課題である。

(10) 本研究の計画の一部(3か国以上での「教育実習」)が、費用や期間、体制の問題等もあり、実行できなかった。もしこれができれば、さらなる知見を得られた可能性がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

① 江島徹郎、山根真理、上田崇仁、梅田恭子、「教育実習」を核とした日韓交流プログラムの発展 2008年度 愛知教育大学ー晋州教育大学学校の学生相互訪問を中心に、愛知教育大学教育実践総合センター紀要、査読無、12巻、2009、99-106

<http://hdl.handle.net/10424/1911>

② 佐藤洋一、2008年改訂・日本の国語教育国際化(欧米)スタンダードと日本的アイデンティティの行方、愛知教育大学教育実践総合センター紀要、査読無、12巻、2009、143-150
<http://hdl.handle.net/10424/1905>

③ 李榮晩、孔泳泰、姜洪在、土屋武志、山根真理、江島徹郎、梅田恭子、上田崇仁、宇

리 大學司 日本 姉妹大學(愛知教育大學)
間の 學生 交流 活動의 實績司
反省、晋州教育大學校大學論文集、査読無
、50、2008、111-126

④ 山根真理、江島徹郎、梅田恭子、孔泳泰、姜洪在、「教育実習」を核とした日韓交流プログラムの開発と実践 2007 年度 愛知教育大学－晋州教育大学校の学生相互訪問を中心に、愛知教育大学教育実践総合センター紀要、査読無、11 卷、2008、47-53

〔学会発表〕(計 1 件)

① Tetsuro EJIMA、Kyoko UMEDA、
Practical Research of Teaching Practice by
Japanese University Students in Korea to
Foster International Perspective in
Teachers、The Second International
Symposium on Educational Cooperation
for "Industrial Technology Education"、
2008 年 7 月 5 日、愛知県刈谷市

〔図書〕(計 1 件)

① 真島聖子他、グローバル時代に育む関係性、愛知教育大学出版会、2011、96

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

江島 徹郎 (EJIMA TETSURO)

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10335078

(2) 研究分担者

山根 真理 (YAMANE MARI)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20242894

梅田 恭子 (UMEDA KYOKO)

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：70345940

上田 崇仁 (UEDA TAKAHITO)

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：90326421

真島 聖子 (MAJIMA KIYOKO)

愛知教育大学・教育学部・講師

研究者番号：10552896